



止水工法

施工要領書 施工説明書

- 1, 使用材料
- 2, 注意事項
- 3, 標準施工図
 - 3-① 1 スパン=2 メートルの場合
 - 3-② 1 スパン=1 メートルの場合
- 4, 組立図寸法表
- 5, 根固めコンクリートの寸法について
- 6, 施工後の止水性能に関する注意事項
- 7, 施工フロー
- 8, 施工手順

日本産業規格表示認証取得工場

都建材工業株式会社

東京都府中市是政4-3-1

TEL: 042-362-4521 FAX: 042-361-1385

1, 使用材料

(1) ミヤコWG用 柱

使用する柱は下記①②③とすること。

- ① フェンスウォール ワイド柱1番 H800 (1段用 地上高さ300mm)
- ② フェンスウォール ワイド柱2番 H1200 (2段用 地上高さ700mm)
- ③ ミヤコWG(ウォーターガード)柱 H1600 (3段用 地上高さ1100mm)

(2) 耐圧板

使用する柱は下記①②とすること。

- ① 耐圧板 L1825×H400×D60 ※1段用に限る
- ② 耐圧板1/2 L825×H400×D60

2, 注意事項

(1) 輸送・保管時の注意事項

- ・耐圧板の輸送・保管の際は必ず立てた状態にして下さい。
- ・カド欠け防止の為、図1の様眼角材を入れて下さい。
- ・輸送時、図1の状態のまま動かないよう、
ロープ等でトラックの荷台に固定する。
- ・保管時、図1の状態のまま倒れないよう、
ロープで巻く等の措置をとる。



図1

(2) 止水・貯水施工の注意事項

- ・止水・貯水施工をする場合は、耐圧板を使用して下さい。
- ・水に接触する側は図の通り、土圧板の凸側です。
- ・縦目地は、水に接触する側としない側、両方にモルタルで施工しその後、
コーキング、シーリング処理をする事。
- ・横目地は、耐圧板どうしが重なる箇所に必ず【プライマー】を塗布し、
目地材として【防水コーキング剤】を使用して下さい。
- ・コーキング、シーリング処理は水に接触する側にして下さい。

(3) 土留め施工の注意事項

- ・土留め施工をする場合は、使用する柵板を耐圧板にして下さい。
- ・より強固な土留めとする場合は、1スパン＝1メートルで施工して下さい。
- ・盛土側は図の通り、耐圧板の凸側です。
- ・縦目地は、盛土側と反対側、両方にモルタルで施工して下さい。
- ・横目地は、モルタルを使用して下さい。

(4) 施工時の注意事項

- ・施工の際、耐圧板の横置きは厳禁です。最後の一枚まで必ず立てた状態にして下さい。
- ・持って移動する時、横持ち（平らに持つ）は厳禁です。必ず立てた状態で運んで下さい。
- ・施工直後、過度な転圧は厳禁です。
- ・汚れた手袋での製品の取扱いはしないで下さい。製品にさわる時は
綺麗な手袋に取り替えてから作業して下さい。
- ・製品に汚れが付いた場合は水洗いして下さい。それでも落ちない場合は
コンクリート専用の洗浄剤を使用して下さい。
- ・本体のフェンス支柱穴にアルミフェンス柱と埋める際には使用するのはモルタルです。
急結材など混和剤は使用しないで下さい。

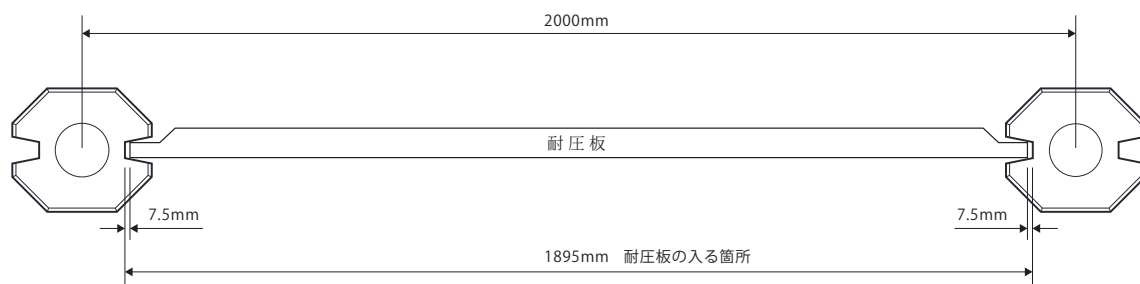
(5) 製品について

耐圧板にて横方向に走るクラックが発生している製品がありますが、
製造過程において出来てしまう沈下クラックです。製品不良ではありませんのでご了承下さい。

3，標準施工図

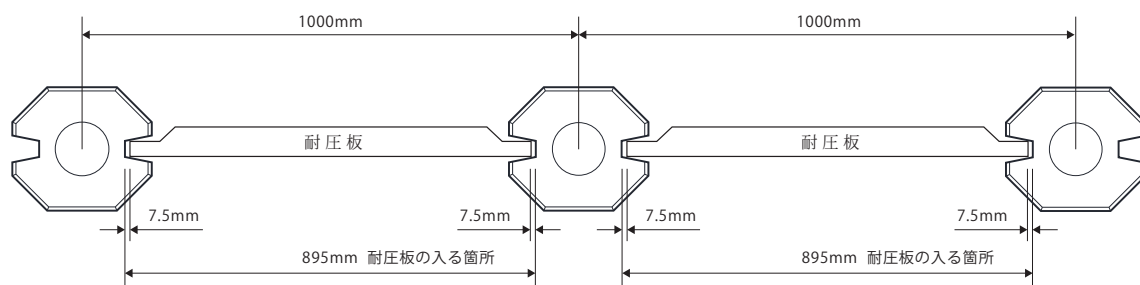
① 1 スパン＝2 メートルの場合

※ 1 段用（地上高さ 3 0 0 mm）に限る。

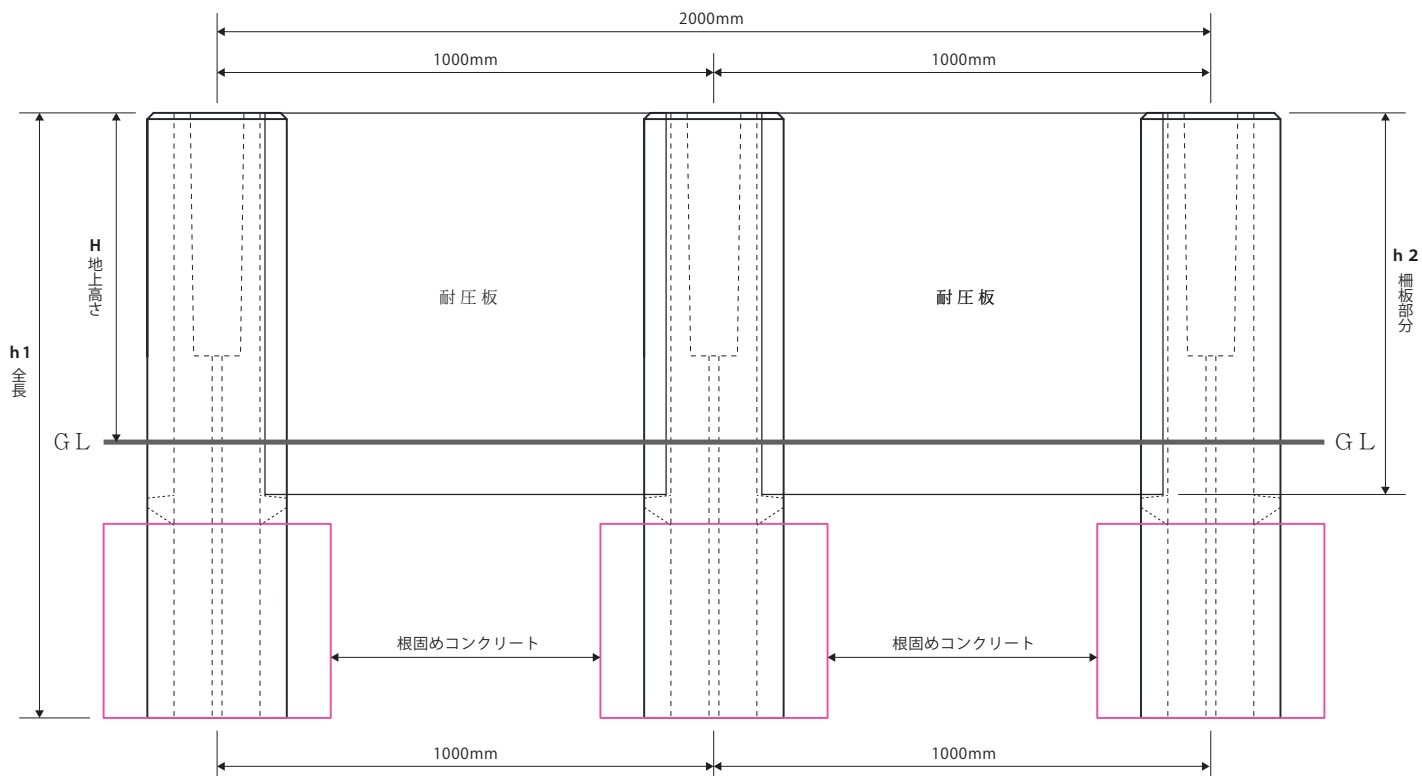


② 1 スパン＝1 メートルの場合

※ 2 段用・3 段用は必ず 1 スパン＝1 メートルにすること。



4，組立図寸法表



		H 地上高さ	h1 全長	h2 柵板部分	耐圧板組み合わせ
フェンスウォール ワイド柱1番	H 8 0 0 (1 段用)	～ 3 0 0 mm	8 0 0 mm	4 0 0 mm	H 4 0 0 mm×1
フェンスウォール ワイド柱2番	H 1 2 0 0 (2 段用)	～ 7 0 0 mm	1 2 0 0 mm	8 0 5 mm	H 4 0 0 mm×2
ミヤコWG(ウォーターガード) 柱	H 1 6 0 0 (3 段用)	～ 1 1 0 0 mm	1 6 0 0 mm	1 2 1 0 mm	H 4 0 0 mm×3

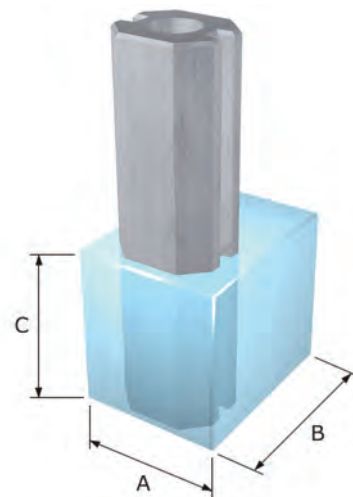
5，根固めコンクリートの寸法について

根固めコンクリートの寸法と注意事項は以下の通りです。
木工の型枠を製作するか、コンクリート枡【改良枡・C D枡】を
型枠として代用する事も可能です。

右図参照

※ 根固めコンクリートの寸法 幅 A：350 mm以上
奥行 B：400 mm以上
高さ C：350 mm以上

※ 柱は根固めコンクリートの境界側から50 mm以上内側に設置すること。

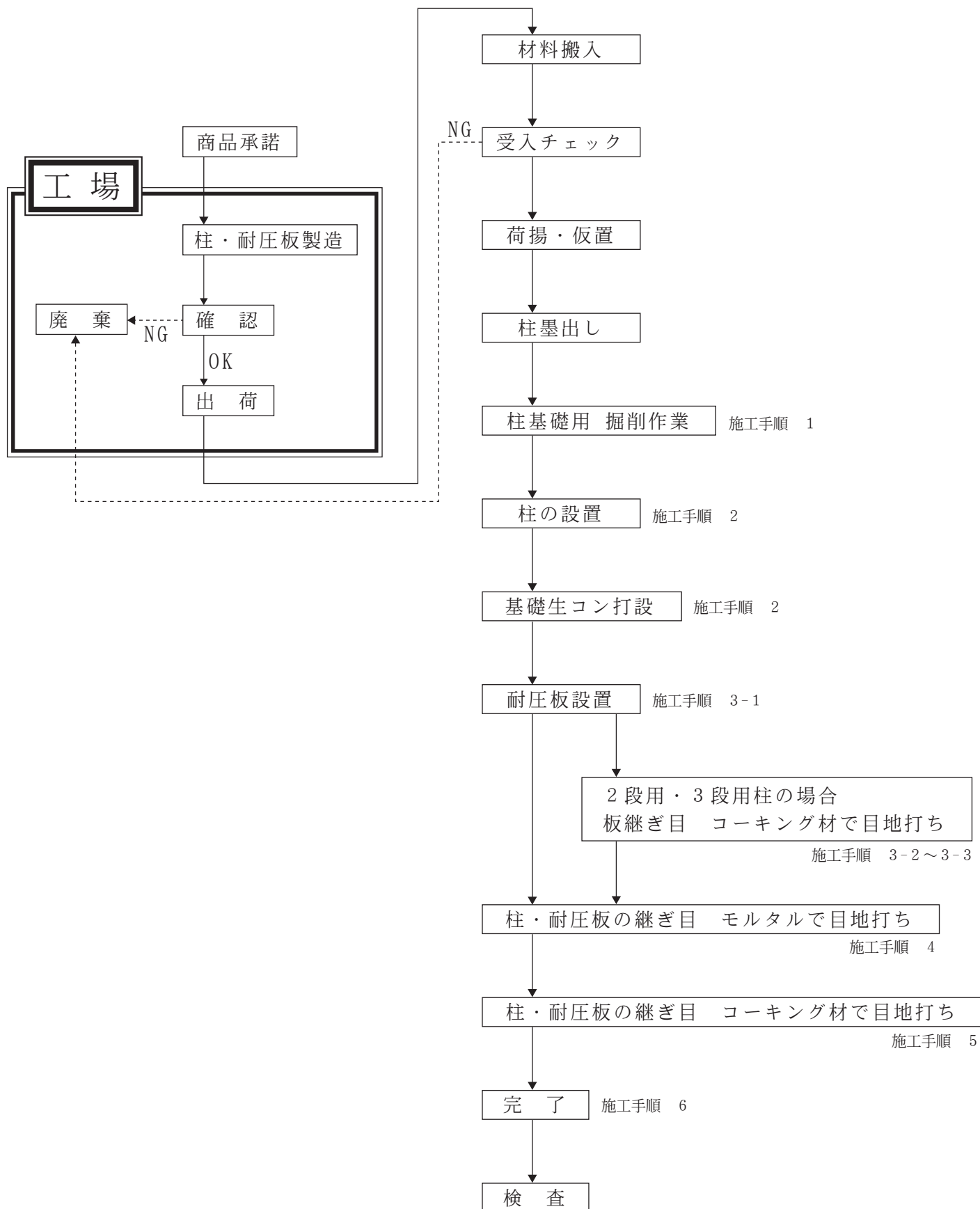


6，施工後の止水性能に関する注意事項

- ※ 使用環境や天災・経年変化等によって多少の漏れが発生する可能性があります。
- ※ 土石流対策製品ではありません。
- ※ 流れてきた漂流物やガレキの衝突などの衝撃に対する耐力計算はしておりません。
- ※ 目地材（シリコンコーキング）の注意事項を確認してからご使用ください。

7, 施工フロー

ミヤコWG(ウォーターガード)® 止水工法 工事のフローチャート。



8，施工手順

材料の搬入・荷揚げ・仮置き。設置場所の確認。墨出し・柱面の設置後の施工手順をご説明いたします。
「QRコード」より動画でもご覧いただけます。

1

柱基礎用の掘削作業。



掘削作業 → 深さ確認 → 碎石投入 → 転圧
柱を建てる為の穴を掘ります。穴の底部は碎石を敷き、充分に転圧してください。
柱は後ほどコンクリートで根固めをします。

※ 根固めコンクリートの寸法

幅：350mm以上

奥行：400mm以上

高さ：350mm以上



解説動画はこちら

2

柱の建て込み・根固めコンクリート打設。



※ 手前が【型枠基礎】 奥が【杭基礎】

柱が垂直に建つように調整、柱と柱の間隔を正確に。

重機での吊り上げ推奨。

柱の建て込みが完了次第、根固めコンクリートを流し込みます。

決められた根固めコンクリートの寸法を必ずお守りください。



解説動画はこちら

※ 柱は垂直に設置すること。

※ 1スパン＝1メートルとは、柱の中心から中心までが1メートル。

※ 生コン打設後、1日程度は養生すること。

※ 型枠での施工の場合、生コン養生後に型枠解体。

※ 根固めコンクリートの寸法
幅 : 350 mm以上
奥行 : 400 mm以上
高さ : 350 mm以上

3-1 耐圧板の設置。(1 段目)



根固めコンクリートの養生期間を経て、建ち上がった柱に耐圧板を差し込みます。

1 段（地上高さ 3 0 0 mm）の場合は次の工程へ。

2 ～ 3 段（地上高さ 7 0 0 ～ 1 1 0 0 mm）の場合は 5 - 2 へ。

※ 柱間の溝に真っすぐに差し込むこと。

※ 耐圧板の向きは、外側に厚みがある側を向けるが、
試験では、厚みが無い側でも実施したが、問題なし。



解説動画はこちら

3-2

板上部にシリコンコーキングを充填する。



2～3段（地上高さ700～1100mm）の場合は、1段目の耐圧板設置後、板上部にシリコンコーキング材を充填する。

- ※ シリコンコーキング材（参考：試験施工時の使用材料）セメダイン8060 グレー
- ※ シリコンコーキング材は耐圧板を重ねた時に目地から溢れる程度に充填すること。
- ※ シリコンコーキング材の垂れ跡を無くす場合、マスキングテープで養生する。
- ※ 溢れたシリコンコーキング材は綺麗に拭き取ること。



解説動画はこちら

3-3

2(3) 段目の耐圧板を重ねる。



板上部にシリコンコーキング材充填後、2段目耐圧板を重ねる。

3段の場合は【3-2】～【3-4】を繰り返す。

- ※ シリコンコーキング材は耐圧板を重ねた時に目地から溢れる程度に充填すること。



解説動画はこちら

4

モルタルで縦目地打ち。（耐圧板 - 柱間）



すべての耐圧板設置後、縦目地（耐圧板－柱間）をモルタルで埋め、拭き上げる。
（裏側もモルタルで目地を埋め、がたつきを抑える。）



解説動画はこちら

5

縦目地にシーラー塗布。 その後、シリコンコーキング材で縦目地打ち。（耐圧板 - 柱間）



縦目地（耐圧板－柱間）をモルタルで埋めた後、
シーラーを塗布し、その後シリコンコーキング材で目地打ちする。

※ モルタル目地がシリコンコーキング材で塞がる程度に十分充填する。



解説動画はこちら

6

完了。



ミヤコWG(ウォーターガード)®の本体工事が完了。

柱の孔（フェンス支柱埋め込み穴）を利用し、
最大で地上高さ3メートルまでのアルミフェンス等を設置出来ます。
アルミフェンス等を設置しない場合、使わない孔はモルタルで塞ぐこと。



解説動画はこちら

補足説明

※ シリコンコーキング材（参考：試験施工時の使用材料）セメダイン8060 グレー

※ 耐用年数について、シリコンコーキング材については5年～10年程度